

2023年3月期 第3四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2023年2月3日

2023/03期 Q3累計 業績概要

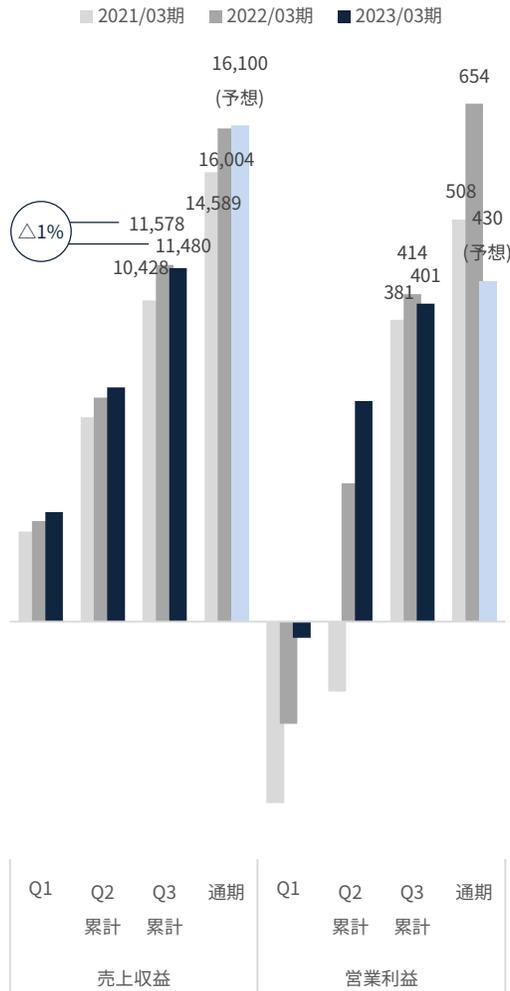
■ 2023/03期 第3四半期累計期間は、前年同期比僅かに減収、営業利益以下も減益

	2022/03期 Q3累計	2023/03期 Q3累計	前年同期比	(百万円)
売上収益	11,578	11,480	△ 98 (△ 0.8%)	<ul style="list-style-type: none"> • BtoB事業は+22%の大幅増収となった一方、BtoC製品需要は欧米市場にて失速
営業利益	414	401	△ 12 (△ 2.9%)	<ul style="list-style-type: none"> • 主要国における行動規制の緩和に伴い販売促進活動を再開、支出増により減益
税引前利益	250	216	△ 34 (△ 13.6%)	<ul style="list-style-type: none"> • 70百万円の為替差損が発生し減益 - 詳細は「金融収益（為替差益）の計上に関するお知らせ」（2023年2月3日発表）をご参照ください
四半期利益	223	181	△ 42 (△ 18.8%)	
資本合計	2,210	2,871	+ 661 (+ 29.9%)	<ul style="list-style-type: none"> • 2022/03期末の2,468百万円からは、+ 403百万円（+ 16.3%）増
自己資本比率	22.3%	24.1%	+ 1.8ppt	<ul style="list-style-type: none"> • 2022/03期末の24.5%からは、△ 0.3ppt減
フリー キャッシュフロー	△ 1,047	△ 768	+ 279	<ul style="list-style-type: none"> • 前年同期比改善も棚卸資産増加により黒字化に至らず

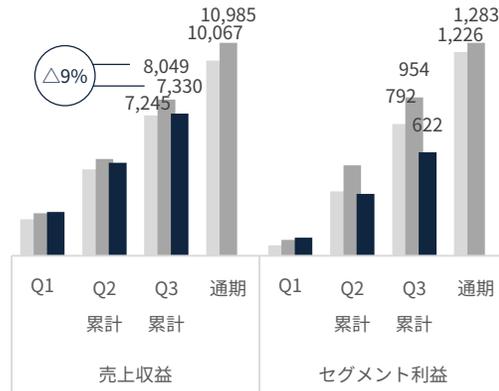
2023/03期 Q3累計 セグメント別業績

(百万円)

売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



・ ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)

- 上半期に上市したブランド創設35周年記念のターンテーブルやパワーアンプなどの新製品が好調に推移しネットワークプレーヤー関連製品も引き続き販売好調。国内は更に輸入ブランド製品の供給も安定し収益に寄与。その結果全体では海外市場での不調を国内が補う形で前年同期比で増収

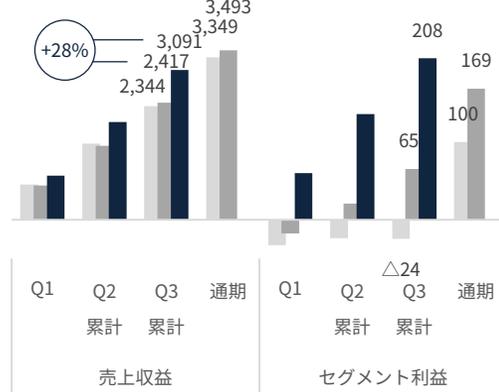
・ プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)

- 国内、海外市場双方においてインフレ圧力やウクライナ危機に端を発する資源価格の高騰などが景気後退懸念として消費者心理に影響を与え、普及価格帯の製品の売上が減少した結果、全体では前年同期比で減収

・ 音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業は、設備市場で定番製品の販売が安定している事に加え、供給不足だった一部製品の受注残消化が更に進んだ事、更には業務用デジタルミキサーの新製品効果もあって販売好調。BtoC事業は、前期末に上市した新製品の販売が好調に推移した一方で、前年好調だった主力製品において巣ごもり需要の反動減により市場在庫の回転が低下し販売は低調に推移。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体としては前年同期比で減収

情報機器事業 売上収益・セグメント利益



・ 機内エンターテインメント機器

- 国内市場は保守パーツ及びサービスを中心に販売を積み重ねたこと、また海外向け販売も保守用部品の出荷が継続し好調に推移、結果として同部門では前年同期比で増収

・ 計測機器関連

- データレコーダーは重工業計測プロジェクト向け及び生体測定向けの出荷が堅調に推移。センサー関連は、半導体製造装置市場全般に向けデジタル指示計及びセンサー共に出荷増。大手プローバ装置メーカー向け出荷の好調に加え、シリコン製造装置関連メーカーからの受注が大きく伸び、結果として、計測機器全体では前年同期比で大幅な増収

・ 医用画像記録再生機器

- 医用画像記録再生機器は、国内の消化器内視鏡向けレコーダーの販売が好調に推移、手術画像用レコーダーに関しても国内・海外共に好調を維持。新製品の4Kレコーダーは米国の最先端医療施設への大口導入が決まるなど市場で高評価を得ており、結果として同部門全体では前年同期比で増収

・ ソリューションビジネス

- 大型受託開発案件の最終フェーズの納入、また医用向けサーバー及びPCの出荷増により好調に推移

その他

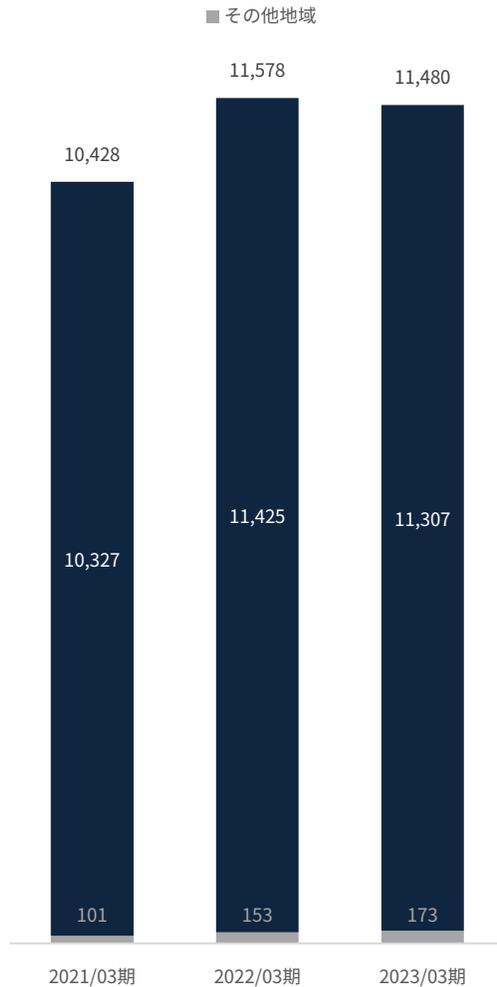
- 前年同期比減収増益

注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

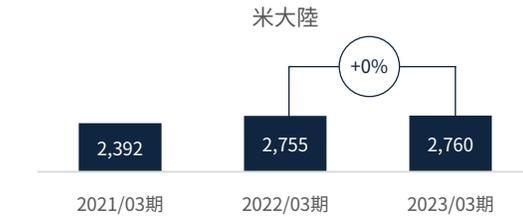
2023/03期 Q3累計 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、-は同減収)

Q3累計 売上収益



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 -
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器、ソリューションビジネス
 -



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 -



- 音響機器事業
 - + 業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 医用画像記録再生機器
 - 計測機器



- 音響機器事業
 - +
 - プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 -

註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q3累計 セグメント別・地域別構成比

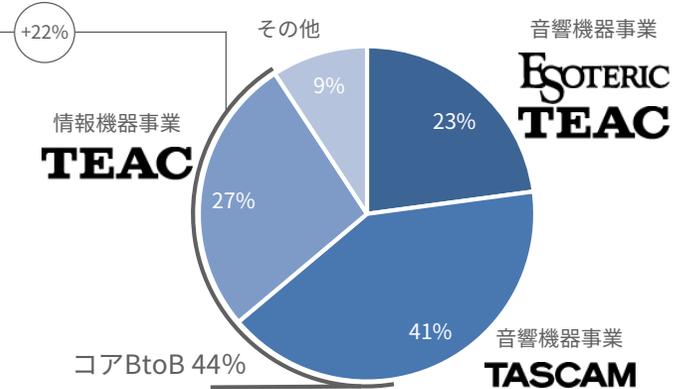
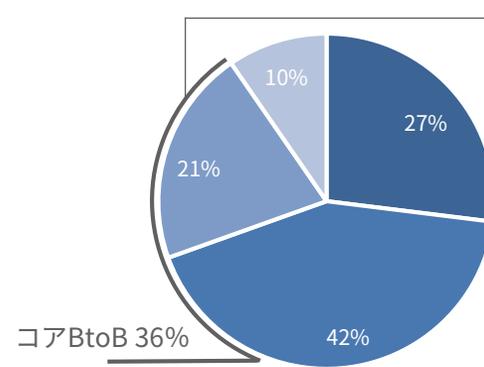
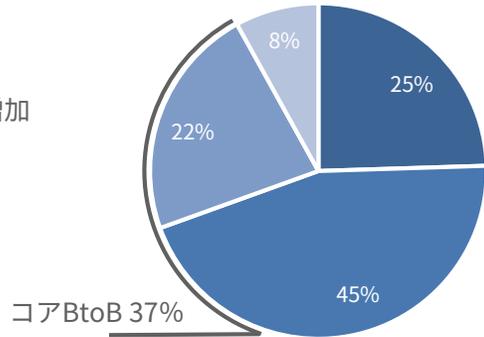
2021/03期 Q3累計 売上収益
10,428百万円

2022/03期 Q3累計 売上収益
11,578百万円

2023/03期 Q3累計 売上収益
11,480百万円

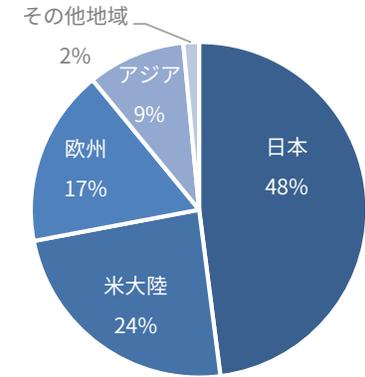
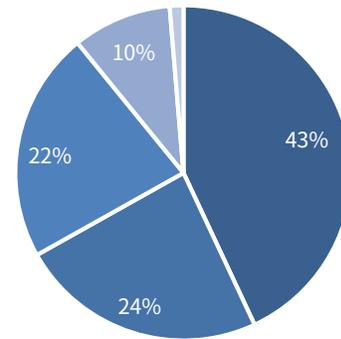
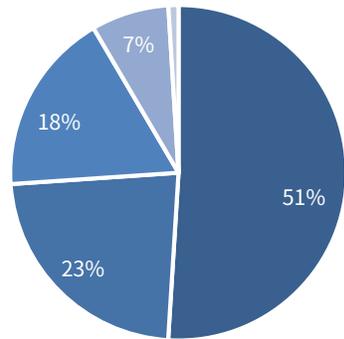
■ セグメント別

- BtoBは+ 22%増収
- BtoB比率は+ 8ppt増加



■ 地域別

- 国内比率は+ 5ppt増加
- 欧州比率は△ 5ppt減少

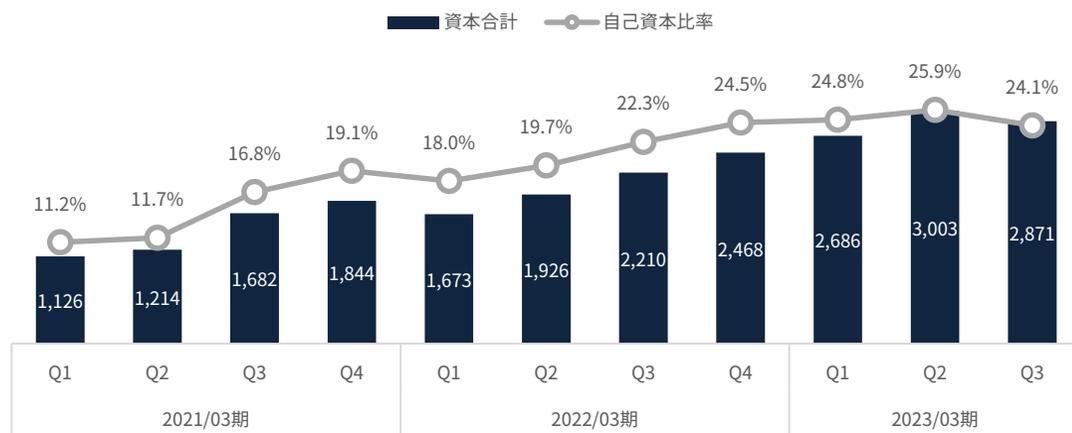


註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q3累計 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

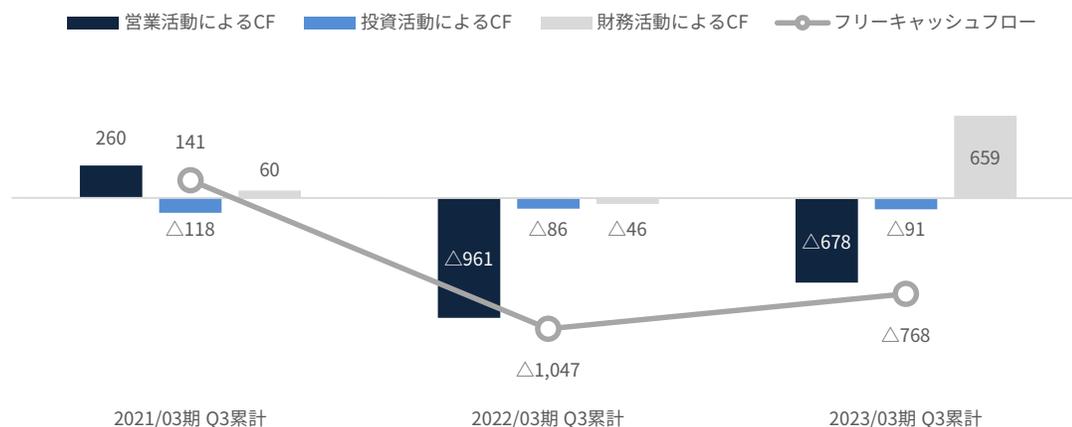
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 661百万円 (+ 29.9%) 増、前期末比+ 403百万円 (+ 16.3%) 増
- 自己資本比率：前年同期比+ 1.8ppt増、前期末比△ 0.3ppt減

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：営業キャッシュフローは△ 678百万円の赤字。前年同期比+ 283百万円圧縮されたものの、棚卸資産の増加を主因とし黒字化に至らず、フリーキャッシュフローも△ 768百万円の赤字

■ 2023/03期 通期予想は、前回予想（2022年5月発表）を据え置く

	2022/03期	2023/03期 予想	前年同期比	(百万円)
売上収益	16,004	16,100	+ 96 (+ 0.6%)	<ul style="list-style-type: none"> Q4においても欧米市場におけるBtoC製品需要の大幅改善は見込めないと想定
営業利益	654	430	△ 224 (△ 34.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 部品価格の高止まりによる原価上昇に加え、一部BtoCカテゴリの価格競争激化による収益性悪化を見込む
税引前利益	481	300	△ 181 (△ 37.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 支払い利息は運転資金借入方法変更後のそれに基づく
当期利益	392	200	△ 192 (△ 48.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年比△ 48.9%減益となる200百万円での着地予想を据え置く
資本合計	2,468	-	-	
自己資本比率	24.5%	-	-	
フリー キャッシュフロー	△ 289	-	-	

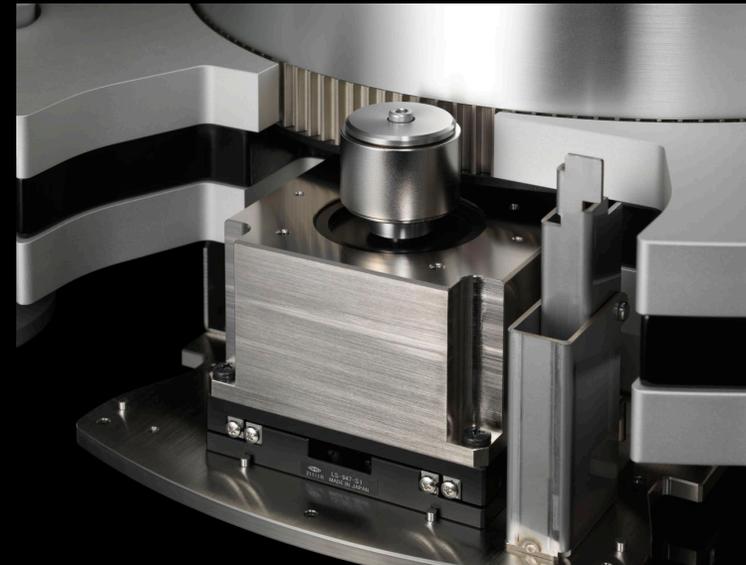
■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

- ESOTERIC創立35周年を記念する、ブランド初のアナログターンテーブル『Grandioso T1』（税込み価格770万円）を発売

Grandioso T1



ESOTERIC MagneDrive System



Grandiosoシリーズの名を冠する製品に相応しく、日本国内で特許を取得した非接触ドライブ方式『ESOTERIC MagneDrive System（特許No.6501130）』をはじめとして『マグネフロート方式プラッター』、モータードライバーの『10MHzクロックシンク』など、革新的な技術を惜しみなく投入

■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- ・ 次世代型ポータブルレコーダー『Portacapture X8』に続く最新モデルとして、中小規模コンテンツ制作向けに『Portacapture X6』を発売

Portacapture X6



Portacapture X8

『Portacapture X8』で好評を博した32bitフロート録音、タッチパネル操作によるユーザーインターフェースなど、基本性能はそのままに小型化を実現

■ 情報機器事業 機内エンターテインメント

- 航空機に加え新たな市場開拓の活動に着手。観光船向け用途の開拓に向け、東海汽船株式会社様（以下「東海汽船」）のご協力にて実証実験を実施

今回の実証実験は、『PortaStream™』を東海汽船の高速ジェット船内に設置し、本体内に収められたコンテンツを乗客のスマートフォンやタブレットでストレスなく楽しむことができるかの確認を目的とし、竹芝客船ターミナルから大島までの航路において良好な成果が得られた。今後はこの実証実験の結果を分析し、新規市場への水平展開を進めていく



註： 今回東海汽船の全面的なご協力のもと実証実験を行いました。今後東海汽船が『PortaStream™』を用いたサービスを提供されることを意味するものではありません

財務データシート (IFRS)

		2021/03期				2022/03期				2023/03期						
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4			
貸借対照表	流動資産	6,833	7,276	7,294	7,475	7,180	7,723	7,939	8,210	9,042	9,886	9,259				
	現金及び現金同等物	1,677	2,025	1,677	1,869	1,440	955	789	1,304	1,353	1,739	1,221				
	営業債権及びその他の債権	2,363	2,494	2,685	2,844	2,167	2,750	2,877	3,154	2,799	2,871	2,809				
	棚卸資産	2,563	2,538	2,677	2,454	3,211	3,651	3,893	3,400	4,566	4,998	4,877				
	その他の流動資産	229	218	256	307	362	366	381	352	324	278	352				
	非流動資産	2,409	2,355	2,245	2,177	2,119	2,043	1,955	1,870	1,804	1,720	2,634				
	資産合計	9,242	9,630	9,540	9,651	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893				
	流動負債	5,528	5,715	5,706	5,872	5,833	5,845	5,822	5,852	6,266	6,430	6,161				
	社債及び借入金	2,676	2,907	2,809	2,666	2,571	2,588	2,574	2,467	2,904	3,030	2,900				
	リース負債	333	337	351	362	352	368	371	312	232	164	264				
	営業債務及びその他の債務	1,209	1,173	1,237	1,447	1,651	1,559	1,557	1,458	1,759	1,798	1,646				
	その他の流動負債	1,310	1,298	1,309	1,397	1,258	1,329	1,320	1,615	1,371	1,439	1,351				
	非流動負債	2,588	2,701	2,151	1,935	1,794	1,995	1,862	1,761	1,893	2,172	2,861				
	社債及び借入金	170	357	356	341	332	697	686	619	820	1,189	1,113				
	リース負債	460	417	388	337	259	167	92	68	64	42	870				
	長期未払金	0	0	0	1,149	1,096	1,044	991	920	833	793	729				
	その他の流動負債	1,958	1,927	1,406	108	106	86	93	154	177	149	149				
	負債合計	8,116	8,416	7,857	7,807	7,627	7,839	7,685	7,613	8,160	8,603	9,022				
	資本合計	1,126	1,214	1,682	1,844	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871				
	親会社の所有者に帰属する持分合計	1,036	1,128	1,599	1,844	1,673	1,926	2,210	2,468	2,686	3,003	2,871				
非支配持分	90	85	83	0	0	0	0	0	0	0	0					
負債及び資本合計	9,242	9,630	9,540	9,651	9,299	9,766	9,894	10,081	10,845	11,606	11,893					
親会社所有者帰属持分比率	11.2%	11.7%	16.8%	19.1%	18.0%	19.7%	22.3%	24.5%	24.8%	25.9%	24.1%					
損益計算書	売上収益	2,924	3,712	3,791	4,161	14,589	3,263	4,011	4,304	4,426	16,004	3,557	4,044	3,879	11,480	
	音響機器事業	1,878	2,576	2,791	2,823	10,067	2,193	2,798	3,058	2,935	10,985	2,262	2,531	2,537	7,330	
	情報機器事業	728	842	774	1,005	3,349	710	813	895	1,076	3,493	907	1,108	1,075	3,091	
	その他	318	295	226	334	1,172	360	400	352	415	1,527	388	405	267	1,060	
	セグメント利益	53	344	400	574	1,371	115	533	474	501	1,623	226	485	345	1,056	
	音響機器事業	63	324	405	434	1,226	97	448	410	329	1,283	109	265	249	622	
	情報機器事業	△33	9	△1	125	100	△17	38	45	103	169	60	76	72	208	
	その他	22	10	△4	16	45	36	47	20	69	171	57	144	24	225	
	個別開示項目前営業利益	△229	141	140	329	381	△129	304	239	240	654	△20	299	123	401	
	個別開示項目	0	0	329	△202	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	営業利益	△229	141	469	127	508	△129	304	239	240	654	△20	299	123	401	
	税引前当期利益	△259	144	490	△33	342	△167	219	198	231	481	△104	138	182	216	
	親会社の所有者に帰属する当期利益	△256	149	486	△78	301	△174	210	187	168	392	△109	140	150	181	
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	339	44	△124	606	866	△174	△751	△36	808	△153	△485	11	△204	△678
		投資活動によるキャッシュフロー	△38	△45	△35	△46	△164	△56	△10	△20	△50	△136	△23	△38	△29	△91
財務活動によるキャッシュフロー		△104	352	△188	△374	△314	△203	283	△126	△253	△299	550	352	△242	659	
フリーキャッシュフロー		301	△0	△159	560	701	△230	△761	△56	758	△289	△508	△27	△233	△768	

注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」を含む

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。